

## 平成30年第4回田原市教育委員会定例会会議録

- 1 開会 平成30年4月6日 午後4時00分
- 2 閉会 平成30年4月6日 午後5時18分
- 3 会議に出席した委員  
花井 隆教育長、金田真也教育長職務代理者、山本明子委員  
土井真紀江委員、太田孝雄委員
- 4 会議に欠席した委員
- 5 会議に出席した職員  
教育部長 宮川裕之  
教育総務課長 伊藤英洋  
学校教育課長 杉田哲利  
生涯学習課長 森下 錬  
スポーツ課長 鈴木信宏  
博物館長 鈴木利昌  
文化財課長 増山禎之  
中央図書館長 豊田高広  
教育総務課課長補佐兼係長 小久保義則  
教育総務課主査 彦坂幸子
- 6 議事日程  
別紙のとおり

## 田原市教育委員会第4回定例会議事日程

日 時 平成30年4月6日(金)  
午後4時00分  
場 所 北庁舎2階 200会議室

- 1 会議録署名者の指名
- 2 教育長報告事項
- 3 報告事項  
    (1) 教育委員連絡報告事項
- 4 その他

開 会 午後 4 時00分

本日は、何かとご多用のところご出席くださりまして、ありがとうございます。

ただいまの出席者は5名であります。定足数に達していますので、平成30年田原市教育委員会第4回定例会は成立いたしました。

これより開会いたします。

それでは、会議規則第13条第2項の規定により、会議録署名者の指名をさせていただきます。

今回の署名者として、山本委員と太田委員のご兩名を指名させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは初めに、教育長報告をさせていただきます。

3月16日、第3回の定例会

3月20日、小学校の卒業式ということで、福江小学校で神藤校長の最後の卒業式の式辞を聞いてまいりました。非常に穏やかな雰囲気の中で、しっかりした卒業式でした。6年生の子どもたちも、しっかりして、非常にあっぱれな卒業生だったと思います。

3月22日、田原市議会本会議の最終日ということでした。

3月23日、小中学校が修了式で、特に何事もなく本年度を各学校終えられたかなというように感じます。

3月25日、田原ライオンズクラブ感謝状授与ということで、タブレットを6台いただいて、小学校の英語活動で使わせていただいておりますので、そのお礼をさせていただきました。

3月26日、学校未来創造計画検討委員会の第4回目の会議で、中間報告をさせていただきました。委員の皆さんお一人ずつからご感想等もいただいた様子でいきますと、この計画がこうやって進んできたので大変安心し、ほっとしたというようなところ。それから、多くの皆さんから、これに賛同していただけるというようなことで、何とか今後、学校の長寿命化計画や跡地利用等、いろいろなことも考えていくと100%できるということで、私としてはこれで80%、ある意味、学校の全体配置の部分についてはこれでいいかなと。本当に委員の皆さんにはしっかりやっていただいて、ありがたかったという印象です。

3月27日、伊良湖岬中学校統合準備委員会ということで、これには、伊良湖岬中学校、福江中学校、伊良湖岬小学校の現PTA関係、校長・教頭先生、それぞれの校区のコミュニティ会長の皆さんにお集まりいただいて、会を進めていただきました。

福江中学校と伊良湖岬中学校の統合の進捗よく状況を今年度の末に確認したということです。概ね進んでいるので、あと1年かけて詰めてやっていくという状況です。これも比較的、通学も含めたところで

スムーズにいつているということでもあります。

3月30日、臨時会、退職辞令交付式ということで、退職の先生方に辞令を渡すことができました。委員の皆様も、この30日と週明けの2日、教育委員会辞令交付式等、大変ありがとうございました。

4月3日、校長会、教頭会、教務・校務の会ということで訪問いただきました。本年度は、半数以上交代がありましたので、メンバーも非常にフレッシュになったり、内容もフレッシュになったりということで、ぜひそれぞれの立場で今まで以上に頑張ってもらわないと学校がうまく回っていかないということで、強くお願いをしました。

4月5日が中学校入学式、6日が小学校入学式という形で、穏やかにできていると思います。

4月5日、東三の教育委員代表者会

今までは、ほかの教育委員会にも委員長というのが見えたのですが、これで蒲郡も新しい教育長を迎えまして、あとは5市2町1村、奥三河も、皆さんはそのままやっております。

あと、土曜日から、文化協会総会等、この予定に従って進んでいくというように思います。

以上で、私からの報告とさせていただきます。

何か今までのことでご質問等がありますでしょうか。

太田委員

お願いします。

年度末ということで、統合関係で言うと、伊良湖岬中学校の統合準備委員会は開催されているのですが、泉中学校のほうも、7月に開かれた第1回の予定を見ると、1月に2回目をやるということでしたけれども、多分やらずに年度がまたいでいくと思うのですが、その辺のいきさつはどういうことでしょうか。

教育総務課長

当初のスケジュールでは1月に予定を入れてあったのですが、専門部会を開いていく中で、年度末に近づき役員が代わっていくということもあり、委員長との話し合いで、年度明けに次の準備委員会でどうだということで、泉中のほうは年度明け、これから次の統合準備委員会の日程を調整していくということになります。あと3年という時期がありますのでということでした。

岬中のほうは、統合まであと1年間ですので、3月に統合準備委員会を1回開かせていただいて、最終的な役員で、あと1年間で調整を図るというような流れになっています。

太田委員

はい、わかりました。

教育長

よろしいでしょうか。

続いては、報告事項で、教育委員の皆様方の連絡や報告事項を順次お願いいたします。

金田委員からお願いいたします。

3月20日、小学校の卒業式で、高松小学校に行ってきました。

14名の卒業生がいて、卒業生の保護者、両親はほぼ全員出席だったと思います。保護者の学校に対する意識や思いがすごく高いというのを感じました。5分前に式場に入ったのですが、1年生から5年生までずらっと並んで、きちんと姿勢よく待機して待っていたところはすごいと思いました。小規模校ながら、卒業生一人一人に本当に丁寧に卒業証書を渡していたという感じを受けました。

あと、校長先生も卒業証書を子どもからもらったと言って喜んで、満面の笑みで卒業式を終わらせていました。

あと、最後に一つ気になったのが体育館。耐震の工事などが終わっていて、屋根の雨漏りの修理もやってもらったと言っていたのですが、バケツが置いてあって、雨漏り。また一度確認をしておいてほしいと思いました。

次は、3月26日月曜日に、第4回田原市学校未来創造計画ということで参加させていただきました。

教育長が言われたとおり、コミュニティの代表や保護者の代表、先生が集まって話をしている、野田の人たちは統合するのに不安だったけれども、今は統合してよかったという意見とか、小さな学校の子は見直してくれてよかったという意見を言っていました。

一つ気になったのが、役員をやるまで自分のところの学校が統合することを知らなかったということを知ったのは、まだ割とこういうことも周知されていないのかなというのを感じました。

これで地域の方々や保護者の方、委員が代わって、また一から内容の詰まった、序章から1章、2章、3章、4章を説明するのに、きちんとできている資料なので、誤解のないようしっかりと説明をしていただけたらと、そのように最後に思いました。

これについては以上なのですが、やはりこういう会議に出て思ったのは、百聞は一見にしかずだというのを感じました。

3月27日に、伊良湖岬中学校統合準備委員会に参加させていただきました。

一番感じたのが、保護者の方の聞く姿勢。前のめりになっていて、しっかり聞いている。関心が高い会議なのだということをまず感じました。あと1年を切ってくるということで、多分そうになっているのかなというように思いました。

あと、学校側としては中高一貫、統合、コミュニティ・スクールということが重なっていて、忙しいのかなという雰囲気と、閉校式の準備ということで、少し焦っている様子を感じました。

それと、最後になりますけれども、スクールバスの運行で、危険箇所が増えることが予想されますので、子どもたちの通学の安全の確保をぜひお願いしたいと思います。

これについては、以上です。

3月30日と4月2日に辞令交付式に参加させてもらって、長い間、田原市の教育を一生懸命支えてくれた先生が去るというのは少し寂しいなど、毎年そう思いながら参加させてもらっています。また反面、田原で教育を受けた子どもたちが教師として帰ってくるというのは心強いなどと思って、それでまた、うれしく思いました。

あと、女性の校長先生が1人増えてよかったですと思いました。

昨日、東三河の教育委員代表者会に出たときに、これは、東三4市で7名ということは、市だけなのですか。市町村で7名。

教育長  
金田委員

市町村というより、蒲郡、豊橋、豊川、田原ということで。

これは7名と書いてあるけれども、7人、女性の校長先生が新規になられたということですよ。

教育長

はい。田原でいくと1人新任で、今、もう1人見えるので、全体では2人なのだけでも。

金田委員  
教育長

田原もよく貢献したのかなと思って。そう思いました。

今、金田委員から報告があったのですけれども、昨日の東三の会での今年度の校長、教頭の任用などで見ると、東三河のほうが女性の登用が全体的には進んでいますよね。

金田委員

そして、最後なのですけれども、昨日、第1回市町村教育委員代表者会議に参加させてもらって、難しい話だったので、まだ資料を見返していないのですけれども、勉強したいと思いました。学校の現場のことを考えた議論をしていて、なるほど皆さん、学校のいろいろなことを考えて議論をしているんだなと思ったのと、あと近藤先生が4年目で頑張っているのを見て、とてもうれしく思いました。

以上です。

教育長

つけ足しで、昨日は、教育委員の方から結構質問などがでていました。表彰とか、全国大会等へ行くものは、生徒と教育長が写って新聞等にも出るのだけれども、東栄町の教育委員の方から、子どもたちが活躍している、全国大会へ行くときに、教育長の顔が見えると。そういういいところは、ぜひ教育長に出ていただきたいという。そういう話がありました。

では、土井委員、お願いします。

土井委員

3月20日に中山小学校の卒業式に参加させていただきました。校長先生も今年最後だったので、感動する部分があったり、いろいろな部分で思い出がすごく強いと思ったのと、低学年と高学年の関係が、すごくみんないい関係が続いているなど思いました。ほかの学校を見てもそう思ったのですけれども、今回の中山小学校も、6年生の子の顔を見たりすると、1年生の女の子が泣いていたり、そういう場面を見ると、仲がよかったから6年生の子が最後に卒業することをすごく悲しいと思う部分があるということは、すごくいい関係がずっと続い

ていたんだなというのを改めて思いました。あいにくの天気だったので、花道などをやることもできなかつたり、外で写真撮影をすることもできなかつたりしたようなのですけれども、それでも子どもたちが先生たちといい写真を撮っている姿を見て、いい卒業式だったと思えました。

3月30日の辞令交付式と教員の新任式に参加したのですけれども、娘の頃からいくと、9年間お世話になった先生たちが、校長先生も、結構かかわった先生たちが多かったので、そういう先生たちが退職される姿を見ると、少し寂しいと思ったのですけれども、これから新しい先生が入って行って、またいろいろな教員が増えていくことによって、いろいろな流れというか、いい学校などがつくれるのかなと思えました。

以上です。

山本委員、お願いします。

3月20日は、赤羽根小学校の白谷先生も卒業ということで、すごく力を入れていたのですけれども、歌が、蛍の光と仰げば尊しで、それから、ピアノも先生が全部自分で弾いて、行きと帰りの花道のときは音楽だったのですけれども、あとはピアノを全部弾かれていてすごく伝統的な感じの卒業式でした。白谷先生は、今日は絶対に力を入れて、一生の思い出に残る卒業式にしたいと言っておられました、非常に思い出深いものでした。

3月30日は退職辞令と表彰式で、初めて記念品の楯を渡させていただいて、心引き締まる思いがしました。

4月2日の辞令交付式。新しい校長先生、教頭先生の顔がなかなか憶えられないので、今年は頑張ってお憶える。やはり教育委員の活動をしていくには人間関係をつくらなければいけないと思っていますので、太田委員、いろいろ教えてください。

活動はそのくらいなのですけれども、今週の水曜日、見られた方もいると思うのですけれども、中日新聞に『高齢教員ほど「多忙感」影響』というように載ってしまっていて、すごくショックでした。

年齢の高い先生はベテランだと思っていたのですよ。だから、多忙化というものをもっと上手に、早く帰れるようにやってみえると思ったのですけれども、これで言うと、子どもの心が理解できないということがすごく書いてあったので、よくわからない内容だと思えました。若い先生のほうが子どもに近く接してられるという。子どもに対する抵抗感が少ないという、こういう記事がありましたということで。

学校教育課長、何かコメントはありますか。

私もその記事は読ませていただきましたけれども、やはり40代、50代といえますか、ベテランの域にかかっている人たちが、教員になり始めたときの学校の子どもの様子と親の様子が変わってきているの

教育長  
山本委員

教育長  
学校教育課長

山本委員  
学校教育課長

で、指示一つ出すにも、なかなか今までどおり出しても聞けないというような子が増えてきたりということで、そういうベテランといわれる先生方が余計に困るような場面が増えてきているので。

本当にあり得るといえることですか。

悩んでしまって、学級崩壊という言葉が一時ありましたけれども、そういうのは、やはり若い人よりもベテランの先生のほうに出てくるというように捉えているのですけれども。

教育長

全てが全てではないけれども、そういう例も。やはり、そういう傾向は今までよりもあるかなという気がしますけれども、太田委員も、コメントも含めて報告をお願いします。

太田委員

私は、中部小学校の卒業式に出させていただきました。卒業生66名、全員が出席でした。不登校傾向の子が2人いるのですけれども、式には出席することができました。やはり卒業式というのは大変重い行事だなということを感じました。河合校長先生の式辞は、目標を持って一生懸命に頑張るといって、本当にオーソドックスな内容ですが、その例として、フィギュアスケートの羽生結弦選手がけがを克服して金メダルをとったという、子どもたちにとって大変身近なことを例に挙げてお話をされました。

小学校は呼びかけが多いのですが、中部は送辞、答辞とも代表者がやっていたので、落ち着いた感じがしました。しかも、1、2年生が式に出ていません。3年生以上ですので、とても落ち着いた感じの、私が今まで小学校で経験した中で言うと、落ち着いた感じの式で、とてもいい雰囲気の卒業式だったと思います。保護者、特に男性が多くなったということ、来賓側から見て感じました。

あと、退職辞令や教職員の辞令交付式については、これまでと違った立場で出させていただくとともに、私自身が3月末をもってサポートセンターも終了したものですから、こういった式に出させていただきながら、自分自身がこれから学校現場のことや、あるいは教育委員としてどのように今後やっていったらいいのかということも考えながら出させていただきました。昨年度までは、学期に一、二度は各小中学校を訪問させていただいていましたので、校長先生を初め、いろいろな学校の様子については、自分なりによく把握はできていたのですが、それがこれからできなくなるということで、もっとアンテナを高くしながらいろいろなアクションを起こしていかなければいけないということを感じました。

それから、逆に言うと、今度は個人的なことで申し訳ありませんけれども、文化協会のお仕事をいただいたり、老人会のお仕事もいただいたりということで、また違う立場で田原市の教育委員として動いていけるかなということを感じながら、まだ模索中ですが、今後どういう形で教育委員としての職務を果たしていけるかということも



考え中です。

それから、新聞記事については、私はよく読んでいないですけども、やはり教育というのは、子育てもそうですが、不易流行というのが必ずあるので、自分がある程度の形をつくると、それをアレンジせずにやっ払いこうとするとしっぺ返しが多くなる。常に柔軟に、目の前の子どもというのは、担任をしていけば、今年と去年は違うし、もちろん1年の中でも子どもは変わっていくので、そういう柔軟性を持った対応が、だんだん高齢になってくるほどできにくくなっていくのではないかと。ある程度、自分のものができてしまうと。そういうことがあるので、こういう多忙感というか、マイナスのような意識ができてきてしまうのではないかと。そういうことを思いますけれども、なかなか年齢とともに、筋肉だけではなくて、頭脳のほうも柔軟性がなくなっていきますので、そのあたりは、やはり自分自身がそういう戒めを持ってやっ払いいかないといけないというように思います。

教育長

ありがとうございました。

今のことで、これは市役所内部も若干言えるようなことかもしれませんが、パソコンが入ってきて、例えばベテランの先生だと少しパソコンいじりが苦手で、字を打つくらいはいいのだけれども、それをデザインなんかしたりする能力があると、できる人というような風潮も若干あるかなと。本来そちらのパソコン面の技能がたけたことによって、子どもに対するときにはどうかという部分。その辺が実は先生の中で、パソコンが苦手な年配の先生からすると、少し引け腰になりかねないという。それで若い人に仕事をお願いするようなことも含めて、リーダーシップ的なものももっととれるといいのですけれども、若干自信を失いかげんになる、引け腰になるような場面もあるのではないかと。本当は子どもと向き合う時間が大切だと周りが言っているのだけれども、職員の中では、しっかりこれで教材をつくるとか、その辺に情熱がいつてしまうと、子どもは力が抜けてしまうようなことも出てくるのではないかと。若い人だと、これが好きなので、こちらで一生懸命になりかねないということもあって、在校時間が長くなっていくというようなことも一因にあると感じています。

では、報告事項は以上で終わります。

学校教育課長

次にその他ですが、事務局から何かございますか。

学校教育課からお願いをいたします。

田原市いじめ問題調査委員会名簿をつけてさせていただきました。

昨年度、この設置についていろいろご意見をいただいて、4月1日から、重大事案がもしあったときに設置ができるということで、委員が5名決まりましたのでご紹介をさせていただきます。

弁護士の菅生剛弘さん。臨床心理士の金井郁子さん。東三河福祉相

教育長

中央図書館長

談センター児童育成課の武田靖志さん。田原市の人権ファンクション委員の小林明夫さん。それから、愛知県の安全なまちづくり推進指導員の見郷直哉さん。

この5名の方に、4月1日から2年間、委嘱をしてお願いすることができましたのでご承知おきください。お願いします。

以上です。

いじめ問題調査委員会のメンバーを、今、報告してもらいました。

では、続いて、中央図書館から。

田原市ふるさと教育取り組み指針草案要旨というものをお配りしております。

これはどういうことかといいますと、最初にも少し書いてありますが、総合教育大綱と教育振興基本計画の中で、ふるさと教育というのが重要な柱とされているわけですが、その推進について、まだ明確な指針がなく、実際の取り組みというのは各学校、あるいは社会教育施設を含む各部署それぞれに任されているというような状況で、あまり連携というものもないという状況があります。そこで、一昨年度、ロードマップを含むふるさと教育の取り組み指針を策定していこうということで、図書館長の私に取りまとめ役ということで、教育委員会事務局の中で検討してまいりました。ある程度、中間的なものですが、形ができてまいりましたので、今回それを出ささせていただきました。本年度前半には草案を、また教育委員会に改めて提出させていただきます。ご意見をいただいた上できちんとしたものをつくりたいというように考えております。

中身の説明をさせていただきます。今の段階で大体A4判で10ページくらいのものになっているのですが、それを4ページくらいに圧縮して持ってまいりました。

第1章の(1)が今申し上げたような話で、(3)ふるさと学習・ふるさと教育とはということで、ここで定義をしております。

「ふるさと学習とは、今、学習者自身が住んでいる、このふるさと(田原市、校区、字など)の自然、歴史、人物、文化、産業といった地域の教育資源や、それらに関する資料を教材として、ふるさとに関する知識を広げ、認識を深める学習です。こうした学習を支援するための活動を指して、ふるさと教育と呼びます」。一応、このように定義をいたしました。

(4)学校におけるふるさと教育の目指すものとしまして、学習指導要領の中にも、ふるさとへの誇りと愛情を育てることが重視されているということで、ふるさとに関わる内容がありますということ。これらを踏まえて、一つにはふるさとを学ぶ、つまりふるさとそのものについて学習をすること。それから、ふるさとで学ぶ、これはふるさとを、学習指導要領を初め、何かを知るための手段としていくという

こと。どちらも大切だけれども、田原市においてはふるさとを学ぶということ、ふるさとそのものについての学習を中心に組み込んでいくことにより、ふるさと田原についての知識を広げ、認識を深めていくことを中心に据えていきたいということを述べております。

それから、地域社会におけるふるさと教育が目指すものということで、大人の場合もふるさとについての知識というものは大事です。ふるさとを生きるための、いわば資源になるというようなことを述べております。

ふるさとの記憶と文化財ということで、文化財などの意義についても触れたいと思っております。過去の記憶を甦らせることができるようなものとして、最新のテクノロジーから、いわゆる文化財まで、いろいろなものを大切にしていける必要がありますということです。

それから、ふるさと教育を発展させるための環境整備とその意義ということで、それぞれの教育機関がさまざまな方法でふるさと教育を促進する活動を行っているわけですが、社会教育施設を含むこれらの教育機関の整備というのが、生涯にわたるふるさと学習の支援という観点から重要な意義を持っているということに触れます。

生涯ふるさと学習と地域づくりということで、地域づくりに関わる人達が、地域についての知識、情報、イメージなどをどのように獲得していくかということが重要なテーマとなりますというように語っております。地域づくりというと、ハードのことばかりに目が行きがち、あるいは経済に目が行きがちですが、それだけではないということで、生涯ふるさと学習の意義を確認します。

ふるさと教育センターについて触れるということが今回非常に重要だというように考えておりますが、ふるさと教育には、教材として活用するためのさまざまな資源が必要であると。しかしながら、個々の教育機関が自前で用意できるふるさと教育の資源には、やはり限りがあるということで、一つには、ふるさと教育のプロセスで生み出されたいろいろな成果を収集して、一つの場所において整理、保管する。場合によっては、それをデジタル化して、ふるさと教育の教材として再活用するというようなことも役割になってくるだろうと。

また、博物館が収集した文化財のうち、一般の人が実際に触ってよいものなどをあらかじめ教材として整理、保管して、展示したり、あるいはふるさと教育の現場や、ふるさと教育に携わる人の研修に貸し出しをしたりすると。このような形でふるさと教育を強力に支援していくという役割が、ふるさと教育センターには期待されるというようなことを述べていきたいと思っております。

裏側をご覧ください。

ふるさと教育にどう取り組むかということで、もう少し具体的な話を、学校教育振興計画を初めとするいろいろな、既に市で持っている

計画の中で、教育委員会が持っているいろいろな計画の中から、ふるさと教育に関わるものを抜き出して、それを整理し直しております。

一つは、学校でふるさと教育を推進するというので、郷土を題材にした学習の展開をしていくということを述べております。例えばふるさとにまつわる歴史や民話、伝承などのエピソード、あるいは民具や農産物などの実物、映像や音声として記録したメディア、こういったものが使われていくわけですがけれども、特に地域の人々との出会いと交流を大切にしていきたいということをここで述べていこうと思っております。

また、現在の学校教育振興基本計画の中で、例えば地域魅力化事業、あるいは共育コーディネーターの配置といったようなことがうたわれておりますけれども、これらも改めて確認をしていきたいと思っております。

ふるさと教育に、学校図書館、市図書館、市博物館などを活用していくということも重視してまいりたいと思っております。学校図書館は、ふるさと教育という点でも、あるいはふるさと学習という点でも、学校のセンター的な役割が期待されますし、学校図書館だけで担いきれない部分については、当然市の図書館、博物館がバックアップしていくということをしつかり位置づけておきたいと思っております。

それから、社会教育としてふるさと教育に取り組むということで、これは生涯学習振興計画、あるいは生涯読書振興計画などでもうたわれていることですがけれども、地域に生きる人々がふるさとについての学習を支援する側に回ることも推進していこうということ。あるいは、そのふるさと教育に役立つ情報、知識の収集、整備をしつかりやっぺいこうということ。その中には、電子化や地域文化資源の発掘、保存、そういったようなことも含まれているということです。

それから、ふるさと教育の循環を生み出すシステム。これは新しい考え方ですがけれども、ふるさと教育の循環を生み出すシステムということを考えていきたいと思っております。右側に中心的に書きましたが、ふるさと教育の循環というのは、例えばふるさとについての講座などで学び続けた人が、今度は教えたり、学びを支援したりする立場に回るということです。

こういうことが可能になるために二つ条件があるということで、第一に、学習する人も学習を支援する人も容易にふるさと学習に関する情報や知識を手に入れることができる環境が必要であろうと。それから、学校における共育コーディネーターに当たるような学習を支援するような人を支援する、そういう人や仕組みが必要になると。例えば図書館の司書や博物館の学芸員も、そういう学習支援者を支援する人材というように位置づけることができるであろうということです。

ふるさと教育の循環を生み出すシステムというのは、学校教育と社会教育のリンクというところが非常にポイントになってまいります。

かつては学社連携ということが非常にいわれていましたけれども、ここしばらくはかすんでしまったようなところがあるのですが、改めてふるさと教育の循環のために、学校教育と社会教育をつなぐ新たな学社連携というものを本格的に考えていく時期になっているだろうということで、第3章で具体的に、ふるさと教育推進ネットワークをつくるというようなことをうたおうと思っております。

ふるさと教育の連携が必要なのは、学校教育と社会教育の間はもちろんですが、それだけではなくて、例えば学校同士、あるいは社会教育の部署、機関、施設同士でも本当は大事なのですが、これがあまり意識されてこなかった。また、個々の実施主体の中でも、例えば過去の成果や記録、例えば郷土劇でこういうことをやりましたというようなものというのは、意外とその後には生かされない。そこで、現在、そして未来へとつないでいくというようなことが重要ではないかということです。こういう問題を解消して、ふるさと教育のためにネットワークを形成していくということで、今の段階では五つほど具体策が挙がっております。

一つが、学校と社会教育施設、あるいは官民間問わず、ふるさと教育の成果を1年に一度は交換し合うようなワークショップというものをやっつけていこうと。

それから、インターネットを活用して、ウィキペディアというものがありますけれども、田原版ウィキペディアというようなことで、ウィキペディアの中に田原の項目を充実させていくタハラペディアを編集してはどうか。あるいは、そのふるさと教育に関するいろいろな資源を登録する資源バンクを設置してはどうか。

それから、ふるさと教育の事例そのものも、きちんとデータベースとして生かせるようにしていく必要があるのではないかと。

そして、最後に、ふるさと教育を推進する組織体制ということで、生涯学習振興計画の主幹課である生涯学習課が中心となりながら、実際の推進に当たっては、学校教育課、文化財課、スポーツ課、図書館が協議の上、密接に連携し合って進めていく。そのセンターとして、ふるさと教育センターを位置づけるというような形で進めていこうではないかというようなことを、今、検討しているところです。

まだこれから具体的な部分については話し合いが行われますけれども、このような形で、今、中間的にまとまっておりますので、ご報告をさせていただきます。

長くなりましたが、以上です。

ありがとうございました。

せっかくの機会ですので、この辺が少しわかりにくいとか、どうなのかというものがあれば。

一番びっくりしたのが、新しく来た生涯学習課長かなとは思いますが。

教育長

文化財課長

昨年度の段階で、豊田館長中心のもとでいろいろ、まずはまとめていただく中で、充実させていく。基本的には、子どもも含めた教育委員会全体のふるさと学習という視点ですので、比較的大人にもふるさと学習に関わってもらってということで、教育全体にいい動きを起こしていけたらということで、ふるさと教育センターも1年半後くらいには報告できるということで、こういう理論と実践をマッチしていけるような、まずはこちらの指針を示させていただきました。

増山課長も少し。教育委員の皆さんは初めてご覧になれるので。

豊田館長と話していたのが、やはりそれぞれの部署が立派にやっているにもかかわらず、一貫した柱がないというのが、今一番問題なのかなと。ふるさと学習というものを、まずふるさと教育というのは、教育委員会全体で理解し、認識し、それで一緒に行きましょうというスタートが切れたら、そこからいろいろなやり方がいきていくのではないかと思います。各学校を回らせていただいても、やはりそれぞれの学校ですばらしいことをやっていて、それぞれがそのことを知らないという状況が一番問題なのかなというように思いましたので、何とかこれをうまくつなげていきたいというようには考えています。

教育長

そのほかで。

先ほど私も少し言ってしまったけれども、ふるさと教育センターという形が見えてきていますので、細かい展示を含めてどのようになっていくか、まだこれは皆さんと一緒に考えてまいりますけれども、まずは考え方を、それぞれの課ではなくて、教育委員会全体でスクラムを組んで。それから、それぞれの学校から出てきているものも、ふるさと教育センターにうまく集約できて、センター的な機能が発揮できるような形にできないかというようなことで、まずはよりどころをつくるというようなところが大事なことだと思います。今から続いていきますので、またその都度、ご意見等がありましたら、ご感想も含めてお伝えいただけたらというように思います。

山本委員

これは振興計画の一環の中の取り組み指針ということで、何らかの計画の中に。

中央図書館長

そうですね。今これがぴったりはまる計画というのは、実はないのですけれども、既につくられているいろいろな計画の中に含まれていることを、逆にふるさと教育というコンセプトで全部集めて整理し直しているというようなかたちなのですね。

山本委員

教育振興基本計画の中に、ふるさとというのが一番大きい柱であるじゃないですか。並行してやっていると。

中央図書館長

そうですね。ですから、次に教育振興基本計画を改訂していくときには、逆にその中に取り込まれていくのかもしれないですが、例えばそのようなこともあり得るのかなというようには思います。

山本委員

本当にふるさと教育センターができれば楽しいですね。

教育長

そうやって、それぞれのところでやっているところを、せっかくセンターが野田にできますので、そこをお互いに共有できるような。教育委員会の中の6課も、それぞれの部分、それから学校も、できれば高校なども入ってきたりして、田原のふるさと教育は子どもも含めて大人までということしていくといいと思う。個人的に思うのですけれども、スポーツならスポーツ推進計画等、各課の計画が大体平成32年くらいが一つのくくりになっているのだけれども、平成32年で終わらせてしまうのがもったいないし、計画づくりに追われて、つくることが仕事になってしまう。というようなことで、このふるさと教育の取り組みでいけば、全課にまたがっているので、各課の推進とか、そういう計画といったものをまたつくらなくても、見直し、検討したものが加わっていくくらいで、その労力というのが、もう少し実質的な労力に変わるべきではないかと。そういう点も皆さん方で問題点として、それぞれの課長に持ってしてもらって、どうしていくかというのは、常に忘れずに、棚に上げせずをお願いしたいということを思っています。今回、これで一つに束ねるといえるのか、ふるさと教育という言葉で、教育委員会をがっちりしていく意味で大事なキーワードだけでなく、キーになるアクションかなと思います。

それも含めて、福江高校と中学校で中高一貫的に活動を起こすのも、やはり学校魅力化も、単なる少子化対応ではなくて、地域のそういう魅力化に対して地域参加を促す中で、ふるさと教育ということで、市外に流出していつている子どもたちも、何とかして地元の学校で中中高まで行ってもらいたい。先生たちにも、中学校の先生、高校の先生、上へ上がると地域からの距離感がだんだん大きくなっていつしまうので、ぜひ高校の先生にも中学校を見てもらって、中学校でこういう勉強をしている子どもたちをぜひ高校の魅力で吸い寄せていただいて、地元の学校で高校生ままで育てあげたいというようなことも思います。やはり何とか生まれ育った郷土で頑張ってもらいたい。郷土が、夢を実現できる場所でありたいということも含めて、ぜひこのふるさと教育も一つ束になってということが大事な部分で、どうやって実現していくかはまだ描けていませんが、今後もっと少子化に対応する中には、ある意味、格好いいといえるのか、魅力的な囲い込み、いいところには自然に人が集まるといえるので、何とか力を最大限にアップさせるとともに、一緒に連携して、協調を得て進められたらと思っています。

金田委員

よろしいでしょうか。

教育長

どうぞ。

金田委員

今日、渥美農高の入学式がありまして、僕は出ていないのですけれども、PTA会長のスピーチが、ふるさと教育ではないのですけれども、今、市外に出ていく子どもがたくさんいるので、なるべく戻って

教育長

きてほしい、親の方にも協力してほしいというような内容で話を  
して、ちょうど今、教育長の話とリンクするのかなと思ったので発言  
させていただきました。

PTA会長が、ああいう舞台上で、そうやってみんなに語りかけて  
くれるのは非常に大事なことで、みんなも気持ちよく、恐らく入学式  
もいい感じでやれていると思いますし、高校の先生たちも今のままで  
いいというようには思っていないと思いますので、子ども一人一人を  
しっかり育てていく。ただ教えるだけではなくて、教え育てる部分を  
しっかりやらせようと、ここに住んでもらうということもあるし、  
住み続ける、ずっといたい、よそから田原へ移り住みたいというよ  
うな力になっていくのではないかとということで、少なくとも住民がまち  
に誇りを持ってないと。まずは、こういうふるさと教育の中で、やはり  
田原はいいまちだということもしっかり身にしみて感じてもらえる  
いいと思うのです。

館長はどうですか。

中央図書館長

そもそも、こういう指針のようなもの、何か参考になるものがない  
かといろいろ調べてみたのですけれども、実はないのですね。逆に言  
うと、まだ本当につくりとしては荒い状態なのですけれども、きちん  
と練り上げていけば、田原が全国に対して、田原の教育はこういうも  
のなんだということを訴えていく力になるのではないかと個人的には  
思っておりますので、ぜひいろいろと積極的にご意見、お知恵を貸し  
ていただければというように思っております。

教育長

このふるさと教育についても、田原はいいことをやっているという  
ことで注目度を受けると、いい意味でのシティセールス、住みたい  
まちに近づけるのではないかとということで、もう少し時間がかかります  
が、皆さん真摯にいろいろなご意見をいただくとありがたいと思  
います。

学校教育課長

一ついいですか。

教育長

どうぞ。

学校教育課長

高校とのつながりということが出てきましたので、今年人事で、東  
三で高校と中学校の交流というのを進めておまして、この4月から、  
2年間ですけれども、田原中学校に国府高校から先生が1名交流で入  
っております。それから、福江中学校の先生が1名国府高校へ行って  
交流をして、それぞれの様子を生かしていくというようなことをやっ  
ておりますので、ご承知おきください。お願いします。

教育長

そういう形で、先日、成章高校の校長先生が、教育委員会、私を訪  
ねていただきましたので、ぜひ高校の魅力を発揮して、何とか成  
章高校を盛り上げていきたいということで。

野球を熱心に教えていた先生で、教え子などは、先生のような監督  
になりたいなんていうことで、私の同級生の息子も、今度、豊橋工業



教育総務課長

高校へ戻ってきて、野球をやるとか言って、いいモデルになっている校長先生ですので、そういう点では、地元に戻ってきたい人を育てている、そういう部分をもっと、小中高も含めて、こういうふるさと学習を起点に、市の盛り上げ、この渥美半島の将来の存続もあると思いますので、貴重な人材を育てるといのは大事な仕事ですので、また皆さん、これに関わっていろいろな情報をもたらえたらと思います。

それでは、あと連絡はありますか。

すみません。来月5月の次回の教育委員会の日程案ですが、5月11日金曜日の午前10時からを予定しておりますので、よろしくお願ひします。

教育長

以上です。

ありがとうございました。

では、よろしいでしょうか。

本日の議事は全て終了しました。ご協力ありがとうございました。これをもちまして、田原市教育委員会第4回定例会を閉会とさせていただきます。どうもお疲れさまでした。

閉 会 午後5時18分

(会議録署名人)

教育長

委 員

委 員